
● 編集後記

本号の総説では、「ヨーロッパにおける医薬品情報提供の現況」として鈴木伸二氏にご執筆いただきました。日本とヨーロッパでは医療をとりまく環境が大きく異なります。一般に処方せん薬は1箱単位で患者さんに手渡され、その中には必ず患者さん用の添付文書がはいつているようです。

また、第2巻第2号および本号ではカリフォルニア大学サンフランシスコ校医療薬学部で医薬品情報を担当されているGary. M. McCart氏にご執筆いただきました。日本と海外との医薬品情報の収集・提供の違いについて比較できるのではないかと思います。本号では、「糖尿病の海外ウェブサイト」が紹介されていますが、インターネットの急速な普及により、海外情報が簡単に入手できるようになりました。インターネット上では英語が公用語のようです。また昨今、EBMの重要性がさげばれていますが、ここからも英語の読解力が重要になってきている気がいたします。

なお、本号より、新企画として「情報企業インフォメーション」のページを設けました。今後、いろいろな企業からのインフォメーションとして掲載させていただければと思います。 (H. S.)